

令和4年4月22日 市長定例記者会見

◆司会

ただいまから市長定例記者会見を開催いたします。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい、失礼いたしました。多くの記者の皆さんに取材をしていただきまして、反響があります。改めてこの場を借りて市民の皆さんに報告をいたします。

皆さんお元気で、少しずつ静岡市での生活に慣れてきているとお聞きして、ひとまず安心しました。記者の皆さんが退出された後も、いろいろ雑談をいたしました。とても静岡市の生活にフィットしているなという心強さも感じました。二、三雑談を紹介しますと、例えば、食べ物の件ですごく日本食、食べられている。で、お子さんは、ツナのおむすび、おにぎりとかマグロのお寿司が大好きだと、お兄ちゃんは辛いものが好きだということまでわさびも大丈夫だと、そんな話がありました。あるいは、ウクライナにいたときサッカーをやっていたそうですね。そういう意味ではサッカーが好きなので、静岡市、サッカー王国なので、ここでサッカーも続けていきたいという希望もありましたので、私どものほうからサッカー教室とか、サッカークラブの情報を提供し、ご家族の皆様、今、どこがいいのか調べているというふうに報告を受けております。このように、いろいろな交流を通じて日本語も学んでいただいて、おそらく、お子さんたちは、適応力がありますので、どんどん日本語上手になりまして、将来はお母さんを通訳するかもしれませんね。そういった意味で、静岡で、平和で安心な生活ができることを願っております。で、面会をした後に、企業の皆さんから就労の場を用意できますよとか、あるいは市民の皆さんからは募金をご家族にお渡ししたいよ、という声もたくさんいただいておりますので、引き続き、避難されたご家族と市民の皆さんの温かい気持ちをつなげるように、行政として取り組んでまいりますので、ぜひ、よろしくお願いいたします。

ウクライナのご家族の報告をした後、今日の本題の静岡市LINE公式アカウントの利便性向上について報告いたします。より利用者の皆さんに使いやすいものへの更新する作業が終わりましたので報告します。今までは静岡市では、一昨年6月にLINEの公式アカウントを取得したわけですが、利用者、いわゆるお友だち、登録者全員に対して、例えば、新型コロナウイルスの新規感染者の数とか、あるいは防災、避難所の開設情報とか、そういう情報に、いわゆる危機管理マターの情報に絞って、配信を行ってきました。しかし、これからは、現在、静岡市のLINEの公式アカウントの友だちの登録者は、およそ8万4,000人に上っています。そこで、これからは利用者のニーズに沿って利便性を高めることによって、より多くの皆さんに利用していただけるよう、新たな機能を追加することにしました。その第一弾を、本日4月22日、正午

から実施する予定ですが、今回追加をする機能は主に二つです。

パネルを用意しましたのでご覧ください。一つ目は、登録者それぞれのニーズに合わせた情報を発信するという機能です。これまでは、先ほど申し上げたとおり、友だち登録者の皆さん全員に対して一斉に、同じ情報配信しかできませんでした。しかし、今後は、友だち登録者自身が、例えば、子育てとか、観光とか、情報を受信したい分野をあらかじめ登録しておく、緊急情報などは全員にいけますけれど、緊急情報などを除いて、欲しい分野の情報のみを受信できるようになります。

二つ目は、トーク画面上の市の公式ウェブサイトのページなどにリンクする入口を増やす機能であります。これもこちらの画面にあるように、現状の6個からメニューを増やすことによって、友だち登録者の皆さんには、より多くの情報を簡単に素早く入手することが可能になり、使い勝手が良くなります。さらに6月には、友だち登録者の皆さんが、例えば、地元のか、地域の道路の壊れている箇所、直してほしい箇所をこのLINE公式アカウントを通じて、静岡市の建設局道路部局にダイレクトに報告できる機能も追加をする予定です。そういう情報、市民の目をお借りして、いただいたらすぐに建設局がそこを修繕していくと、そこにコミットしていくという、そんな機能も追加する予定であります。もとより私は、情報発信力の強化ということに鋭意取り組んできました。その中でLINEは有力なツールです。国内での利用者が最も多いといわれているSNSです。今後も多くの市民の方に利用していただくことによって、さらなる市の情報発信の強化につなげてまいりたいと考えています。私からは以上です。

#### ◆司会

それでは、ただ今の発表について皆様からのご質問をお受けいたします。ご質問の際は、社名、お名前をおっしゃってからお願いいたします。いかがでしょうか。読売新聞さん。

#### ◆読売新聞

読売新聞社です。LINEの登録者数を、例えば、どれぐらいまで増やしたいというふうな目標とか希望はございませんでしょうか。

#### ◆市長

10万人までいきたい。

#### ◆読売新聞

10万まで、それはいつ。

#### ◆市長

これバックキャストで考えなければいけないんですけども、やっぱり当事者に言って

もらうほうがいいだろうな、どうでしょう、広報課長。

◆広報課長

すいません。まだ明確に、まだ、いつまでというのが申し上げられないのですが、この後、またクーポンのLINEから配信機能を使って利用勝手、皆様に多く登録していただいて、ご利用いただけるようにしていきたいと考えております。

◆司会

他に、日経さんよろしく申し上げます。

◆日本経済新聞

日本経済新聞です。緊急情報が全員に送られるという話がありましたが、差し障りなければ詳細に、緊急情報、どこからどこまでが当たるのかということをお教えしていただきたいのですが。

◆市長

これは通常。

◆日本経済新聞

通常の…

◆市長

例えば、防災緊急情報でラジオなんかも配布しています、同報無線なんかもあります。それで緊急に伝えたいというようなことは、一斉にいろんなメディアを通じていろいろなツールを通じて発信する。それをこれにも適用するということでもあります。

◆日本経済新聞

ありがとうございます。

◆司会

時事通信さん。

◆時事通信

すいません、時事通信です。お願いします。ウクライナの件なのですが、企業の皆さんから就労の場を用意できるという、お話があったとのことですが、具体的にどういう企業さんから、どういう申し出があったか、ということをお教えください。

◆市長

これは教えることができるのでしょうか。いかがでしょうか。

◆国際交流課長

国際交流課長の萩原です。現在いただいている中で、市内にある企業さんで、株式会社アースシフト様から就労の場を用意しています、というような報告がこちらにありました。今日、聞いているのは、アースシフト様が報道のほうにもお知らせをするということ聞いておりますので、また、そちらのほうを見ていただければと思います。お願いいたします。

◆司会

よろしいでしょうか。他にはいかがでしょうか。それではよろしいでしょうか。それでは続いて幹事社質問に移ります。静岡朝日テレビさん、よろしくお願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

はい。幹事社の静岡朝日テレビです。もうすぐゴールデンウィークに入りますが、またゴールデンウィークに入りますと帰省やら国内旅行やらで、人の流れが活発になって新型コロナウイルスの感染が拡大する恐れが出てきますが、今、市民に呼びかけたいことをお願いします。

◆市長

はい。大変タイムリーな質問をいただきました。ありがとうございます。市民に呼びかけたいこと、主に二つありますけれども、記者おっしゃるとおり、私たちも心配しています。これからゴールデンウィーク、大型連休中はお出掛けする方やイベントなどで人流が大きくなりますので、再び感染拡大に転じることを懸念しております。そこで、しかしながら、そういうふうにゴールデンウィークを楽しんでもらうということのために市民の皆さんには二つ、感染予防対策の徹底と、打てる方には一日でも早くワクチンを接種していただく、このことを呼びかけたいと思います。特にワクチンの接種については、接種券をお送りしたうち3割の方がまだ接種されておられません。接種から十分な抗体ができるまでには、1, 2週間程度かかります。現在、医療機関のほか、前回の会見でお伝えをしたとおり12歳から17歳のお子さんが、ご家族そろって接種ができる集団接種会場も準備をしております。予約を受け付けておりますので、このゴールデンウィーク前の機会にご家族そろって接種を、ぜひ、ご検討していただきたいというふうにお願いをいたします。また、ゴールデンウィーク期間中も集団接種会場を五つの会場

で1万5,000人分のワクチンの予約枠、用意しております。加えてツインメッセ静岡では、4月20日の土曜日から予約なしでの接種も受け付けております。ゴールデンウィーク期間中の4月30日の土曜日、5月1日の日曜日に予約なしで接種が可能です。平日の接種、仕事があるとか難しい方は、この機会を利用してぜひ接種をお願いしたいと思います。さらに、ゴールデンウィーク前のこの時期、感染拡大防止に向けて、この二つの加速化を図るように指示しておりますが、この取組に関しては田中保健所長、今日、同席をしておりますので、少し専門的な立場から情報提供していきたいと思っております。

#### ◆保健所長

保健所長の田中でございます。現在の感染状況と資料、今、お配りをさせていただいておりますけれども、やはり高止まりしているということで、県のほうからも発表がありますが、少し変異株との関係、整理をさせていただきました。今回、高止まりが続いている、なかなか感染数が減らないという状況なのですが、変異株の分析状況などと合わせてみますと、最初にデルタ株の大きな波がきて、その後オミクロン株の波、そして、現在、流行っておりますステルスオミクロンと言われておりますBA2、現在、私ども環保研(注:静岡市環境保健研究所)と国立感染症研究所との連携によりまして、市内の置き換わりが8割を超えて9割にしようとしているという、非常に高い状況になっています。県全体の平均では6割程度という話もありますけれども、やはり、人口密集地帯であるということ、首都圏をはじめ大都市との交流が盛んだということ、かなり極めて早い速度での置き換わりが進んでいる、ただこういった中、ワクチンの接種者数のグラフも重ねておりますけれども、やはり市民一人ひとりの感染予防に対する取組と併せまして、やはり、ワクチンの接種数が増えていきますと、デルタ株を抑え、オミクロン株を抑え、そして、現在のステルスオミクロンに関しましても、ご覧のとおり、少し下降傾向が見えてきているという状況で、やはり、何度も繰り返し申し上げておりますけれども、現在のワクチン、いろいろとブレイクスルー感染とか言われておりますけれども、それなりに有効に作用して感染症、このステルスオミクロンに関しましても抑え込みに寄与しているという状況でございます。

したがいまして、今、市長のほうからもお話しがありましたように、ゴールデンウィーク前まで、まだ1週間程度時間がありますので、予約券お持ちの方につきましては、できるだけその機会を利用していただきたいというふうに考えております。また、その他、この感染の予防に関しましても、一応市長のほうからもこのコロナの特性を踏まえ、ちゃんと整理して体系的に進めるようにということで、現在、作業を進めておりまして、特に若年者層、小児の領域、今、非常に数が増えておりますので、こういった方々への対策を強化していきたいと考えております。現在、保健所のほうで、感染者に関しまして、いろいろとアンケートなど行っているんですけれども、1割程度

の方、感染者で1割程度の方が、コロナに関しては自分とは関係がないと思っていたという方が、かなり若年者層でいらっしゃるということが分かっております。やはり若い年齢層が、軽症だからかかってもたいしたことないんだ、といった情報も一部で出ておりますが、影響を受けている可能性もあります。若いといっても、やはり後遺症などに悩む方もいらっしゃる、また、若い年齢層であればあるほど社会的な活動が活発になりますので、そういった方が意図せず感染を拡大させてしまう、そういったことも踏まえまして、対策を立てていきたいと思っております。以上です。

◆静岡朝日テレビ

市長がおっしゃった集団接種、ファイザー製のワクチンを利用するというので、予約状況というのは好転してはいるのでしょうか。

◆保健所長

ちょっとまた具体的な数値、後ほど発表させていただきたいと思っておりますけれども、意外と思った以上に、わりとモデルナのワクチンのほうも打っていただいているという状況はあります。確かにファイザー優位であるということには変わりはないのですが、やはりファイザー受ける状況にも関わらず、モデルナを選んでいただいている、これは一部情報で、かえって交互接種、つまりファイザー、ファイザー、ファイザーじゃなくて、ファイザー、ファイザー、モデルナのほうが、抗体価が上がるといったような情報もあるので、そういったところを目ざとく感じて打っていただいている方もいるんじゃないかなと考えています。また詳しい数値につきましては、後ほど提供させていただきます。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございました。

◆司会

すいません。一点修正をお願いいたします。先ほどツインメッセでの予約なしの接種の受付についてですけれども、4月20日の土曜日とご説明させていただいたのですが、正しくは4月20日、水曜日からですので、訂正のほうをお願いいたします。朝日テレビさん、よろしいですか。はい。それでは幹事社質問に関連する質問をお受けいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それではその他、幹事社質問関連のご質問はないということでよろしいですかね。では、その他の質問があればお受けいたします。いかがでしょうか。それではテレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。よろしくお願いします。桜ヶ丘病院の移転関連でお聞きします。この移転をめぐり、県のほうが建設費や設備費の支援の補助金を見送ったという経緯がありますが、市のほうでは協定で内科の常勤医5名以上、常に配置されるよう支援していくということだと思いますが、この県の補助金見送りを受けて、市のほうでなんらかの支援だったりとか、検討されていることはありますでしょうか。

◆市長

そうですね。静岡市としては、これまでも救急医療をはじめとした清水地域の医療体制を強化するというために、桜ヶ丘病院の移転新築を支援してきた経緯がありますので、今後もなんらかの支援ができるのか、目下目下、検討をしております。また、基本協定書で定めた医師確保の件についても、今後も引き続き支援してまいりたいと考えています。

◆テレビ静岡

今、支援検討されているとおっしゃいましたけれども、考えられる支援としては、例えば、どういったことが現時点で、仮でもいいのですけれども。

◆市長

いくつか、どちらのほうですか、医師確保について？

◆テレビ静岡

医師確保でもいいですし、例えば資金の補助金等、今、何か想定されているものがあれば教えていただきたいのですが。

◆市長

そうですね。公的な病院全体の中でバランスはとっていかなければいけないとは思いますが、財政的な面も含めた支援を検討しております。

◆テレビ静岡

すいません、新しく森院長が内野さんの後に4月に就任されたと思うのですけれども、森院長先生は市内出身で県総の副院長もやられておられたということで、医療事情、詳しいと思うのですけれども、今後、森院長に対する期待ですとか、もし、交流等ありましたら、お願いします。

◆市長

そうですね。本当に、森院長は、専門分野はもとより、非常に国際的な感覚も今までのご経歴の中でありますので、そういった意味でも期待をしておりますし、もう一つ、人間的な意味でもたいへん柔らかな、とても優しい、そういうお人柄であります。ですので、森先生が院長になることによって一つの桜のような、とっても清水の皆さんから愛されるような病院になっていけるのではないかなと期待しております。

◆テレビ静岡

最後に、市民、津波浸水域の移転に反対する市民が、まだ活動して、説明が不足していると言っていますけれども、先月、一応、着工されて開院が来年度中ということなのですけれども、今後への課題ですとか、そういった説明というのを、改めて市長は、どのようにお考えか教えてください。

◆市長

私はいつもバックキャストと言っているのですが、将来、開院をして5年経つのか10年経つのか、その時に、「この病院があって良かったな」と多くの市民の皆さんに感じていただけるように努力をしてまいりますけれど、反対している方にも、そういうふうにしてくださる日が来ることを私は願っています。

◆テレビ静岡

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

NHKさん、お願いします。

◆NHK

NHKです。2月12日に静岡病院でコロナの判定を受けられた後、自宅療養を求められて4日後に亡くなった男性のことについて伺います。市長、先月の会見で毎日新聞さんの質問に対して、静岡病院のほうから詳しい事情を、報告を受けた後で、説明を承知しておきたいと思っています、とおっしゃいました。その後、経緯について、どのように承知になさっていますでしょうか。

◆市長

そうですね。改めてご遺族には心からお悔やみを申し上げますとともに、今、記者おっしゃるとおり、静岡病院において適切に対応しているものと聞いておりますが、いずれにせよ、大切な一つの命が新型コロナウイルスで失われたということについては、とても残念に思っています。



◆NHK

ご遺族は、適切な対応してもらっていると全く思っていないかもしれませんが、静岡病院において適切に対応されていると聞いている、というのはどういう情報でしょうか。

◆市長

誠実に家族と向き合っているというふうに私は報告を受けています。今後ご家族からご要望があれば継続して対応をしていくとも伺っております。

◆NHK

市立病院であることもそうですし、二次医療圏である静岡医療圏をまるごと所管している自治体としても、入院を希望するご本人や家族に十分な検査や説明もなく、入院を断って自宅療養4日後に亡くなるに至った、ご遺族はおそらく生涯にわたって、あの時もっと強く入院をお願いしていれば、と後悔することになると思いますが、そうした事態が目の前で起きたことに、市長、何か改善の必要性とか、考えていらっしゃらないのでしょうか。

◆市長

私は、医療のことに詳しくありませんけれど、個別の患者さんの対応については、やはり静岡病院のほうで適切に対応してくれていると、私は信じています。

◆NHK

市長から何か改善を促す、市長からプッシュすることは特にないということでしょうか。

◆市長

まだ目下、目下で私が全ての情報を掌握しているわけではありませんので、今後の検討課題だろうというふうに思っています。

◆NHK

例えば入院ができなかったこと、病床の関係でひとまず置くとしても、ご本人やご家族が納得できるだけの説明や検査、いわゆるインフォームドコンセントに欠けていたのではないか、あるいは知的障がい者に対する合理的配慮、わかりやすく言えば、ハンデがある方への思いやりですね、これに欠けていたのではないか、というご意見については、どう思っているのでしょうか。

◆市長

記者の考えは、一つの考えとして受け止めさせていただきます。

◆NHK

私個人の考えではありませんのでお答えください。

◆市長

記者の考えを受け止めて、今後検討するということを申し上げました。

◆NHK

今、私は個人的な見解を申し上げたわけではありません。ご遺族の方の発言をお伝えしています。

◆市長

ご遺族のなんでしょう？

◆NHK

ご遺族の方の思いをお伝えしています。

◆市長

心よりお悔やみ申し上げるという気持ちを今日は繰り返させてください。

◆NHK

市長は、静岡市方式という、自宅療養の患者宅にドクターが電話をして、診察をして、療養上のアドバイスをするという制度を作ったと、記者会見まで開いて誇らしげに語っていらっしゃる。どうして、今回、このご家族のもとには、そうした医師からの電話もなかったのでしょうか。

◆市長

そこまで詳しくは承知をしておりません。

◆NHK

救急搬送でそういった総合病院でコロナ判定を受けた場合、静岡市方式の対象外になるということなのか、保健所や保健福祉長寿局から何かご説明いただけることありますか。

◆保健衛生医療統括監

保健衛生医療統括監の吉永です。緊急搬送されたコロナ患者さんに対しましても、今回のケースとしては対象になるというふうに考えております。

◆NHK

では、対象になっているはずなのに、実際にドクターからの電話は一度もなかったと伺っております。それは…

◆保健衛生医療統括監

そちらにつきましては、まだこちらのほうとしても詳しい内容については把握しておりませんので、その件についてはお答えすることは、今ちょっとできかねます。

◆NHK

調べていただけますか。

◆保健衛生医療統括監

対応につきましては調べる、保健所の対応につきましては調べることはできますので、それは調べたいと思います。

◆NHK

人の命に関わっていますのでよろしくお願いします。

すいません。私からも一つ、いわゆる箱もの事業についてですが、スタジアムとアリーナについてなんですけれども、エスパルスの山室社長は「J1の試合だけだと年間20数試合しかないが、東京と名古屋の中間地点なのでコンサート利用や見本市の需要はあると思う」とおっしゃっています。これは市長の考えとも、スタジアムについてですが、一致しますか。

◆市長

はい。

◆NHK

でしたら、この東京と名古屋の中間地点なので、コンサート利用や見本市の需要はあるという言い方は、市長がアリーナの必要性や活用についておっしゃるときと、全く同じ言い方ですね。市長は東静岡でアリーナができたら今の想定どおり、静岡ホビーショー並みの1万7,500人が来場するイベントが、年間12日開かれて、8,000人や1万席がほぼ完売するような音楽イベントが40行われて、2駅離れた清水駅でスタジアムを作ったらアリーナとは別に、アリーナ以上の2万席クラスのイベントやコンサートが頻繁に行われると、どちらも作れば作っただけ需要は後から作り出せるという

ふうにお考えでしょうか。

◆市長

その時々を経済状況にもよりますので、それは一概には申し上げることはできませんけれども、政令指定都市として東京と名古屋、とても交通アクセスのいい立地性を生かして最大限の受け皿は作っていかうという考え方があります。

◆NHK

受け皿だけ作って、1万クラス、2万クラスの箱ものを二つ同時に走らせる。イベントの食い合いということは生じない、とお考えなのでしょうか。

◆市長

様々な社会状況によって、その数字というのは、ずいぶん上下するのだらうと思います。コロナも、我々、想定しなかった事態になっていることによって、当初の目標がずれてしまっているということがあります。逆に、これからコロナの後、ポストコロナの時代、大交流時代、昔、大交流時代ということ、観光庁がしきりにおっしゃっていましたけれども、今まで出かけられなかった分、とにかく出かけよう、アウトドア、とにかく楽しんでいこうと、そういう人間の欲求っていうのもあろうかと思えます。ですからインバウンドがポストコロナの安心安全な社会になったら、またぐっと急上昇するかもしれません。いずれにしても静岡市は、定住人口だけではなくて交流人口、関係人口の拡大によって人口活力、経済活力を維持していこうという基本的な考えを持っていますので、その方向性の中で、今できることを取り組み始めているという、ご理解をお願いします。

◆NHK

質問の角度を変えますと、アリーナについて建設費、イニシャルコストは賄えないけれども、ランニングコストは採算取れそうだとことを民間事業者さんとお話し合いになったそうですけれども、その時点で民間事業者さんに、二駅離れた清水駅のほうでも2万人クラスのスタジアムでコンサートやイベント開くことになるかもしれませんけどね、ということは、ちゃんとお伝えしていたのでしょうか。

◆市長

それはもちろん事業者でありますから、周辺の状況のマーケティングはされているというふうに思います。また、アリーナとスタジアムは、全く受け皿としての機能が違うというのも、ご理解いただきたいというふうに思います。

◆NHK

スポーツとしては違うのは分かります、ピッチとフロアですから。コンサート、イベント会場、見本市、これは相当食い合うのではないですか。

◆市長

それは事業者さんが決めることで、よって、今後その人気度によって使用人数が2,000人なのか、7,000人なのか、1万5,000人なのか、全国各地域を見てみると、そういう全ての受け皿を用意してある大都市もありますのでね。そのところは、私どもは財政規律を堅持しながら、着時、全部一斉にやるというわけではなくて、計画的に整備を進めていくということでもありますので、ご理解をお願いします。

◆NHK

すいません。ちょっと長くなりますが、サッカースタジアムの有力候補地である袖師町のJR清水駅東側のエネオスの土地について伺いますけれども、清水駅東口公園の土地を桜ヶ丘病院の移転先として提供するというのを、一昨年、市長が決断された段階で将来的にはマリンロード一本隔てたあの土地にスタジアムを作ることになるかもしれない、病院がスタジアムと隣接することになることも念頭に置いた上で、病院移転先を決めていたのでしょうか。

◆市長

それは当時の仮定の話ですけれども、ご承知の通り2019年の公民ランドデザイン、2040年を目途とした静岡、清水都心のあり方について、さまざまな議論がありました。その中で東口地区、江尻地区をどうするかということでいろんな構想があって、それについて検討していたということでもあります。

◆NHK

あの場所にスタジアムが建設された場合の騒音対策、そして2万人か、それ以上の観客が試合終了後に一斉に清水駅に向かって、病院を含む周辺に人が密集することへの対策、どうお考えですか。

◆市長

これからの検討課題でありますので、まだそうなるかどうかこれからですよ。今、その答えを私は準備をしておりません。

◆NHK

そのあたりのビジョンはないと、例えば、横浜FCのニッパツ三ツ沢球技場も、一昨年、

本当に隣に、真隣に横浜市民病院が作られたのですけれども、当然、病院のほうが後から来たので、最初から設計としてスタジアム側の壁は、窓を小さくして防音性の高いサッシとガラスにして、内部構造としてもスタジアムから反対側に入院患者さんの病棟を置くという対策が採られています。建設中の清水さくら病院、当然ですが現時点でスタジアムとの隣接を想定した防音設計にはなっていませんが、これから桜ヶ丘病院とどうい話をされるのでしょうか。

◆市長

横浜の事例は私、初めて聞きましたので、記者からいただいた情報を元に研究を進めてまいります。

◆NHK

研究を進めるのではなくて、ニッパツ三ツ沢は最初からそれが分かっていたので、そういう病院になっているのです。清水さくら病院はそうっていないのです。当然、JCHOさんが想定するものではないと思います。今後どう説明していかれるのですか。

◆市長

当然JCHOさんも、私たちはこういうグランドデザインのもとで、この東口の公園、提供するのだよ、ということは理解してくださっているものと思います。

◆NHK

将来的にスタジアムができるかもしれない、スタジアムの有力候補地であるということの説明しているのですか、JCHOさんには。

◆市長

詳しいことは、今までのやり取りの中で全部、私が承知しているわけではありません。

◆NHK

JCHOさん、そんなことは知らされてないと思いますが。

◆市長

その断定をするのも早計だと思いますけどね。

◆NHK

私なりに確認しています。そういうことを想定はしていないと、市長、エスパルスのホーム戦は行かれたことないことはないと思いますけれども、ご承知のとおり、スタ

ジアムを振動させるほどの大音量の音楽ですとか、スポンサー契約上欠かせない協賛企業のCM、これもかなり大きな音です。何よりエスパルス名物のサンバ調のチャントですね。スタジアムの外でも声を揃えて太鼓や手拍子を打ち鳴らして、選手とサポーター一体になるのがコロナ前の清水の文化だったわけですね。ニッパツ三ツ沢でも周辺住民から騒音のクレームがあるそうですけれども、清水特有の何百メートルも空気を震わせるようなチャントとか、鳴り物といったスタジアムの観戦の醍醐味は、スタジアムを病院前に、駅前の土地に移したらコロナ終息後も規制していかれるということなのではないでしょうか。

◆市長

これも記者からの今、情報をなるほどな、と思って聞かせていただきましたので、今後の検討材料にしていきたいと思えます。ありがとうございました。

◆NHK

そういったことも今年度のスタジアム検討会の中で反映、議論はしていくということでしょうか。

◆市長

はい。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、はい。第一テレビさんお願いします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。2点ありまして、まず一つ目なのですが、城北公園についてなんですけれども、先日、住民監査請求が棄却されたということで、いわゆる市長のご意見がちゃんと理解されたものだと思いますけれども、それについての受け止めが一つと、もう一つスターボックスの反対派の住民によると、いわゆるスターボックスの出店について、いろいろ難航しているのではないかと、もしかしたらなくなるのではないかという声が上がっているのですが、現状、計画に変更があるかどうか、伺ってもいいのでしょうか。

◆市長

大きく二つ質問をいただきました。まず一つ目の棄却の件については、静岡市の主張が認められた妥当な判断であると受け止めております。それから二つ目のことについては、現時点では、そのような話は私のもとには届いておりません。

◆静岡第一テレビ

現状は予定通りということですね。ありがとうございます。

もう一点、水族館の話なのですけれども、来週、松坂屋静岡店で都市型のアクアリウムができるということで、静岡市において水族館が一つ増えるわけなのです。現状、三保の東海大学の海洋水族館がある中で、海洋文化施設がそもそも、もう必要ないのではないかと、という市民の意見もあります。松坂屋の水族館との住み分けと、海洋文化施設の場合はいわゆるイルカショーとかですね、そういう、いわゆる楽しむ、そういう施設ではないということですが、その集客力への疑問も一部声が上がっているのですが、その点について、市長、お答えいただけますでしょうか。

◆市長

松坂屋さんの今回の意欲的な取組は、素晴らしいと思います。やはりデパート、百貨店の集客力をこれから高めていく上に、階の上のほうにアクアリウムを設置して、そしてエレベーターで、階段で下りてもらうという仕掛けだろうと思います。それに対して海洋文化施設は、もっときっちり丁寧に説明しなければいけないのですけれども、JAMSTECという国の第一線の海洋についての学術研究組織と、私立ではたいへん有力な東海大学海洋学部と我々行政、経済界が一緒になって、そして、例えばアメリカカリフォルニア州のモンレーのMBAを視察して、こういう世界レベルのものができればいいな、という大きな目標からスタートしたものであります。私は国立施設並みの機能を持った、そんな海洋文化施設、世界に輝く清水港の一つの核施設にしていきたいと経済界の皆様とも話を進めております。あるいはスマート海洋、デジタル田園都市国家構想という流れの中で、地元の国会議員の先生方も、せっかくやるのだったらそういう大きなビジョンも必要だということで、議連を作っていたり、シンポジウムを開催していただいたりしています。そこともジョイントをするということであるので、松坂屋とのアクアリウムとの住み分けはできるというふうには思っています。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。今の住み分けの部分なのですけれども、端的に言うと松坂屋の水族館と海洋文化施設の住み分けとは、どうかたちなのでしょうか。



◆市長

松坂屋の水族館は、いわゆる観光施設、集客施設という色彩が強いのに対して海洋文化施設の場合は、もちろん観光集客施設という機能、プラスアルファ学術教育施設でもあるということでもあります。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。NHKさん、お願いします。

◆NHK

すいません、他社さんのいましがたの報道で恐縮なのですが、大浜公園の再整備の入札が中止になったということへの事実関係と理由について教えていただけませんか。

◆市長

都市局ですね。

◆緑化政策担当部長

緑化政策担当部長鈴木と申します。大浜公園のPFI事業につきましては、3月に入札参加の希望者を公募いたしまして、4月7日に締め切りました。先週4月13日に表明のあった事業者さんに対しまして資格確認を行ったところ、資格要件を満たしていないということで、失格という判定をいたしました。結果といたしまして、入札参加有資格者がゼロというような結果になりました。今後、参加に対して興味を示していた事業者さん等からヒアリングをしまして、また改めて再公告を目指して進めてまいりたいと考えております。

◆NHK

最低限のことを確認しますが、失格になった理由と、それはその会社の属社的な話であり、残りの業者からは、また再度、札を入れてもらえる見通しがあるのかということと、これによってオープンがずれるのかどうか、お聞かせください。

◆緑化政策担当部長

失格となった原因ですけれど、当然のことながら失格要件として大きく16項目ぐらいありまして、例えばの話で、この事業者さんがそこというわけでもないのですが、例としまして、ああいうプールを造って管理して運営して、あるいは他の集客施設を

造るという、いろいろな業態の事業者さんが集まる、いわゆるSPC、特定目的会社というのを構成していただくことになるのですが、この参加表明の申請書に、それぞれの業態の会社さんを、こういう会社さんを入れてやります、というところを求めているのですが、例えば、そういうところが全て満たしてないとかですね、いろいろ、そういうようなチェック項目がある中で、満たしてない部分があったということです。今、令和7年7月をリニューアルオープン予定しておりますけれども、こちらについては変えずに、なんとか進めていきたいと考えております。すいません、もう一つ何でしたっけ。

◆NHK

つまり、失格した業者さんとは当然、提案のランクが微妙に落ちるかもしれないけれども、また札を入れてもらって。

◆緑化政策担当部長

そうですね。

◆NHK

採択できる見通しは。

◆緑化政策担当部長

はい。これにつきまして参加表明が、もっといただけるようにとか、あるいはどういう、我々の公募条件にしたら、もっと手が挙がるのかはまた今後ヒアリングとか、サウンディングを重ねまして、参加表明していただいて入札できるような、そんな公募要領をまた改めて検討していきます。

◆NHK

すいません、つまり4月7日に締め切った入札は、1社しか1事業体しか応募がなかったのか、それとも次点とか3番目4番目の他の候補がいるのか、いかがなのでしょう。

◆緑化政策担当部長

はい。参加表明をしていただいた事業者さんは、1社でした。

◆NHK

他に手が挙がっていないのですね。

◆緑化政策担当部長

そうですね。

◆NHK

1社しか応募なく、かつ、それが札を閉めた、箱を閉めた後に資格要件満たしていないということは、通常想定していることなのですか、こういった入札の手続きにおいて。

◆緑化政策担当部長

入札を行ったわけではなくて、入札に参加させてくれ、という参加表明の募集なものですから、札を入れたというよりは、こういう体制で事業に臨む、入札に臨むという書類を提出していただいて、その資格要件を審査した結果、失格になったということです。これまでサウンディングを重ねて、我々も当然その公募要領作った中で応募していただけという見通しで公募をかけましたので、それがなぜ表明していただけなかったというところは、今後ヒアリングをして原因を究明して参ります。

◆NHK

時間超過していることを承知のうえで市長に一言だけ伺います。こういったかたちで入札が中止になるのは、私、覚えている限りでもコロナ前の海洋文化施設、そして、清水庁舎と続きました。県でも図書館の件でそういったことがありましたけれども、こういったことが相次いでいること、つまり静岡市のサウンディング調査による事業者との対話能力、理解力をどう評価しているかということと、今後、先ほど申し上げたようなスタジアム、アリーナ、今年も、すでに水族館も7月に控えているわけですが、そういったことの見通し、どう思っているのかコメントをお願いします。

◆市長

公共事業に民間活力を入れていくといういわゆるPFI事業は、やはり民間企業の事業の採算性と公益性の両立が必要です。この事業性と公益性を両立するといったときには、その時々を経済状況が大きく作用します。コロナ禍という厳しい経済環境の中で、今後の経済の見通しも考えて、これが事業性と公共性、両立する事業なのかどうか、ということ判断されると、こういう経済の大きな流れと密接に関連をしているという中で、それぞれの企業の判断だということ、ぜひ受け止めていただきたいと思います。

◆NHK

少なくとも最初の海洋文化施設の入札の延期はコロナ前のことでしたし、コロナ前でも市の見込みどおりにいかなかった、そして、コロナ後、民間投資が回復している今、やるべきだと市長がゴーサインを出した事業で、こうした事態が引き続き起きている、

結局、静岡市の事業立案能力の問題ではないのでしょうか。

◆市長

私はそうは思いません。静岡市は、その時々事業者の皆さんと丁寧にヒアリングをしてきたというふうに受け止めております。

◆NHK

では、どうしてコロナ前もコロナから回復に向かう、民間投資回復していると市長が強調される今の時期においてもこういったことが相次ぐのでしょうか。

◆市長

申し訳ないのですけれど、ただ今の質問について正確にお答えする準備が今できません。全部のいきさつについて私は掌握をしておりません。こういう質問に対しては、謙虚に受け止めておきたいと思います。

◆NHK

ありがとうございます。

◆司会

それではよろしいでしょうか。すいません。それでは、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回は5月13日金曜日、午前11時からとなりますので、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。